



北海道小平高等養護学校 開校30周年記念誌

夢に向かって挑戦し
未来を切り拓く人を育てる



北海道小平高等養護学校
開校30周年記念誌

北海道
小平高等
養護学校

校訓

笑顔・助け合い・学び合い

学校教育目標

夢に向かって挑戦し、
未来を切り拓く人を育てる

北海道小平高等養護学校校歌

一、緑やさしい 小平の里に
笑顔のあいさつ 韶き合い
明るく学ぶ 喜びに
豊かな心 つくります
明日を夢みて 歩こうよ

二、陽光まぶしい 温寧の丘に
集う若者 共に生き
自ら学ぶ 楽しさに
優しい心 つくります
明日を夢みて 歩こうよ

三、風雪きびしい 歴史の里に
虹のかけ橋 共にあり
生き方学び たくましく
丈夫な体 つくります
明日を夢みて 歩こうよ



校旗



校章

目 次

校訓・学校教育目標・校歌・校旗校章 1

開校30周年によせて

挨 拶	北海道留萌教育局長	大 畑 明 美 3
	北海道小平高等養護学校長	齋 藤 利 文	... 4~5
お祝いのことば	小 平 町 長	関 次 雄 6
	協 力 会 会 長	石 黒 朋 幸 6
	P T A 会 会 長	木 下 華 代 7
	初 代 校 長	手代木 莊 司 7
生 徒 会 長	丸 山 莉 音	 8

沿革～開校からのあゆみ

沿革の概要 9~11
-------	------------

教育活動の紹介

各学科紹介 木工科・クリーニング科 12
窯業科 13
寄宿舎紹介 14
編集後記 15

開校30周年によせて



開校30年によせて

北海道教育庁留萌教育局

局長 大畠 明美

北海道小平高等養護学校が創立30年の節目を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。

本校は、平成8年に保護者や地域の皆様の期待に応え、障がいのある子どもの教育の機会拡充を図るため開校し、以来、留萌管内唯一の特別支援学校として特別支援教育のセンター的機能を発揮しながら、今日まで着実に歩みを進めてこられました。

この間、500名を超える卒業生が本校を巣立ち、地元をはじめ道内外のさまざまな分野において、有為な人材として活躍されていることは、誠に喜ばしい限りです。

本校は、「夢に向かって挑戦し、未来を切り拓く人を育てる」ことを学校教育目標とし、卒業後、子どもたちが社会で活躍するための資質・能力の確実な育成に向けて、地域と連携・協働した教育活動を展開してこられました。道の駅等でのクリーニング科の生徒による清掃活動、木工科や窯業科の生徒による写真立てやマグカップ等の製品販売など地域資源を活用した実践的な学びを進めるとともに、マスクが不足したコロナ禍においては、製作した布マスクを役場や福祉施設へ寄贈するなど、地域社会への貢献も積極的に行ってこられました。

また、南北に約130kmと広域な留萌管内において、特別支援教育コーディネーターが幼児教育施設・小学校・中学校・高等学校を訪問し、幼児児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた支援の方策について助言するとともに、教職員を対象とした研修会を開催するなど、特別支援学校としてのセンター的機能により、管内全体における特別支援教育の推進に多大な貢献をされております。

こうした取組は高く評価され、平成29年度には、留萌管内教育実践表彰を受賞し、令和6年度には、文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞するなど、校長をはじめとする学校組織全体による教育活動の確かな歩みが広く認められております。

このことは、歴代の校長や教職員の皆様はもとより、熱心に学びに取り組まれた生徒の皆さん、温かく見守りお力添えをいただいているPTAや同窓会、地域の皆様方、そして多大なるご支援をいただいている小平町様のおかげであり、ここに深甚なる敬意と謝意を表するものであります。

現在、本校で学んでいる生徒の皆さんには、開校30年という節目を新たな一步と捉え、校訓に示されている「笑顔・助け合い・学び合い」を胸に、新たな歴史を築いていくことを期待しております。

教職員の皆様方には、この記念すべき年を節目として、これまでの優れた教育実践を礎に、よりよき校風の創造に努められますよう御期待申し上げます。

結びに、本校の教育の振興に御尽力をいただきました関係の皆様に心より感謝申し上げますとともに、小平高等養護学校のますますの御発展を心から祈念し、記念誌の刊行に寄せることばといたします。

開校30周年によせて



「確かな学びと子どもたちの未来をつなげる教育活動の充実に向けて」

北海道小平高等養護学校

校長 斎藤 利文

本校は、平成7年に北海道新教育長期総合計画後期実施計画に基づき設置が決定され、平成8年4月に開校いたしました。当時、留萌管内には特別支援学校がなく、知的障害のある生徒は遠隔地への通学や寄宿舎生活を余儀なくされていました。本校は、「地元で学ばせたい」という保護者や関係機関の切実な声を受け、多くの関係者の熱意と尽力により、知的障害のある生徒の後期中等教育の機会拡充と、「職業的自立」「社会的自立」を目指す教育の実現を目的として誕生した、北海道内でも先駆的な高等部単独の特別支援学校です。

これまでの歩みを振り返ると平成19年には学校教育法の改正により、「養護学校」から「特別支援学校」への制度改編という大きな転機を迎えるました。この改革は、障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導と支援を重視し、自立と社会参加を促す教育への転換点となりました。

本校もこの流れの中で、校内支援体制の整備を進めるとともに、留萌管内唯一の特別支援学校としての重責を担い、発達障害を含め、障害の種類や特性に応じた専門的な支援を行うことができるよう地域に根ざした教育の拠点として、教育機関や福祉関係機関との連携体制を築いてまいりました。

平成26年(2014年)には、障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)が批准され、教育の在り方にも変化が求められるようになりました。これを背景に、北海道教育委員会は平成29年度から障害の程度による「軽度」「重度」の区分を廃止し、より柔軟で包括的な教育体制へと移行しました。本校では専門学科の再編が行われ、開校当初から設置されてきた木工科・クリーニング科・生活窯業科・生活園芸科の4学科体制から、木工科・クリーニング科・窯業科・園芸科の4学科体制となりました。

近年は、留萌管内における学齢期人口の減少や、道内各地に新たに開校した高等支援学校の整備により、広域からの入学者数が減少傾向にあり、令和8年度からは木工科・窯業科の2学科体制となる予定です。

こうした変化の中でも、本校は「夢に向かって挑戦し、未来を切り拓く人を育てる」という学校教育目標のもと、教育活動の充実を図り、変化に対応しながら質の高い教育活動を継続しています。現在は、「自己を理解する力」「他の人を理解する力」「情報を収集する力」「協働する力」「コミュニケーション力」「地域で生活する力」の6つの力を、卒業までに育成すべき資質・能力として位置付け、教育課程の充実に努めています。

令和7年度は教育課程の改善作業を進めており、社会の変化や教育の動向を注視しながら、時代の要請に応えられる人材の育成を目指しています。

北海道の教育は、「自立」と「共生」を理念として、「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進」「学びの機会を保障し質を高める環境の確立」「地域と歩む持続可能な教育の実現」の3つの施策を柱に掲げて推進されています（北海道教育推進計画 令和5年度～令和9年度）。

開校以来の本校の教育実践は、北海道の教育理念を現場で体現しており、長年の取り組みが、この3つの施策と合致しています。

その成果として、これまでに526名の卒業生が、製造・加工業、清掃・サービス業、流通・小売業、地域の福祉施設など、さまざまな分野で働き、立派な社会人として留萌管内および道内で活躍しています。本校は、留萌管内の後期中等教育を担う特別支援学校としての使命に誇りと自信をもってその役割を果たしております。

このような実績は、学校だけでなく、地域や保護者、企業など多くの方々の支えがあってこそ実現されたものです。まさに「地域とともに歩む教育」の結晶であり、地域の皆様の温かいご理解とご協力、そして惜しみないご支援があってこそ、今日の小平高等養護学校があります。あらためて、深く感謝申し上げます。

さて、この30年間で社会は大きく変化し、私たちはかつてないほどに変化の激しい時代に生きています。AIやロボティクスの進化、グローバルなつながりの深化、そして気候変動や社会的多様性の広がりは、本校が創立40周年を迎える令和17年（2035年）頃には、さらに社会を大きく塗り替えていくことと思われます。

こうした未来を見据えたとき、学校は単に知識を伝える場ではなく、子どもたちが目標をもち、何事にも挑戦しながら互いの違いを理解し、自分の考えを伝え、意見や理解の相違を乗り越えて他者と協働し、社会に貢献していく力を育成することがこれまで以上に求められます。

これからも、地域に根ざし、確かな学びと子どもたちの未来をつなげる教育活動の充実に努め、自らの未来を切り拓いていけるよう、教職員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。

皆様には、今後ともご理解ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。



かつては校舎の近くに風力発電所がありました。

（平成21年に落雷による故障のため撤去）

開校30周年によせて



開校30周年に 寄せて

小平町長
関 次雄

北海道小平高等養護学校の開校30周年、誠におめでとうございます。町を代表して心よりお祝い申し上げます。

本校は、平成8年4月に開校、爾来、留萌管内をはじめ、全道各地から生徒を迎え、一人一人の教育的ニーズに応じた専門性の高い教育を実践するとともに、この地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮に努められ、ここに晴れて30周年の記念すべき節目を迎えることは、感慨もひとしおであり、誠に喜ばしい限りであります。

これもひとえに、生徒を日夜支える教職員の皆様、もとより保護者の皆様、そして何より地域の方々の温かいご支援とご協力の賜物であり、今までの歩みに改めて敬意を表しますとともに、心からお礼を申し上げます。

また、本校の生徒の皆さんが町内において活動されている際に見せてくれる明るい笑顔や真摯な姿勢は、私たちに多くの気づきと感動を与えてくれています。交流を通じて「ともに生きる社会」の実現に向けた理解が深まり、小平町の豊かさの一つとなっております。

30周年という節目を迎える、本校がこれまで築いてこられた歩みを振り返るとともに、未来への新たな一步を踏み出されることを心より期待しております。町としても今後とも学校との連携を大切にしながら、誰もが安心して学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。

結びに、北海道小平高等養護学校の益々のご発展と、保護者の皆様、関係各位、また校長並びに教職員皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げお祝いの言葉といたします。



開校30周年に あたって

小平高等養護学校協力会
会長 石黒朋幸

小平高等養護学校開校30周年記念誌のご発刊、誠におめでとうございます。

小平高等養護学校協力会を代表して、心よりお祝い申し上げます。

30年の長きにわたり、本校が今日まで発展を遂げられましたことは、ひとえに歴代の校長先生、教職員の皆様の献身的なご尽力と、保護者の皆様、地域住民の皆様、そして関係機関の方々の温かいご理解とご支援の賜物と深く感謝しております。

本校は、開校以来、「一人ひとりを大切にする教育」を理念に掲げ、知的障がいのある生徒たちが社会の中で自立し、豊かな人生を送るための支援を続けてこられました。卒業生が社会に出て活躍する姿を見るたびに、協力会一同、大きな喜びと感動を覚えます。

協力会は、学校と地域、保護者の皆様との架け橋となるべく、様々な活動に取り組んでまいりました。学校祭の物品購入や、部活動、寄宿舎行事への助成など、微力ながらも学校の教育活動を支えることができたことを大変光栄に思います。

これもひとえに、会員の皆様のご協力とご支援があったからこそと、重ねて御礼申し上げます。

近年、障がい者を取り巻く環境は大きく変化し、共生社会の実現に向けた取り組みが加速しています。このような時代において、小平高等養護学校が果たす役割はますます重要になると確信しております。

今後も協力会は、学校の教育目標達成のため、そして生徒たちが将来への希望を抱き、それぞれの可能性を最大限に伸ばせるよう、引き続き支援を惜しまない所存でございます。

この記念すべき日を機に、小平高等養護学校がさらに発展し、地域になくてはならない存在として、未来へ向かって力強く歩み続けることを心より祈念し、私の寄稿とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

開校30周年によせて



開校30周年によせて

小平高等養護学校
PTA会長 木下華代

北海道小平高等養護学校開校30周年、誠におめでとうございます。輝かしい記念すべき年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

本校は30年前、多くの方々の熱い思いとご尽力によって開校したと伺っております。

本日までの本校の発展においては、歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆様の献身的な指導、地域の方々の温かいご支援、そして歴代のPTA会員の皆様の活動のたまものであり、今の礎を築いてくださっていることに深く感謝申し上げます。

PTA活動を通じて関わらせていただく中で、学校行事の成功を共に喜びあえるのは、私たち保護者にとっても何物にも代えがたい経験となっています。

時代が変化していく中、子どもたちを取り巻く環境も変わっていくことと思いますが、私たちはその変化に対応しながら、子どもたちが安心して学校生活を送り、豊かな心を育んでいくよう努めてまいります。

PTAとして学校や地域と連携を深め、子どもたちの教育環境の充実に微力ながら貢献していくことができればと思っております。

子どもたちがこの学校で得た知識・経験・そして友人との絆を糧とし、それぞれの夢に向かって力強く羽ばたいていくことを期待しております。

これからも北海道小平高等養護学校が40年、50年と続いていき、教職員の皆様、地域の皆様、そして子どもたちのますますの活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。この記念すべき日が皆様にとって思い出深く、喜びに満ちた1日となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



開校30周年を祝って

小平高等養護学校
初代校長 手代木莊司

謹んで北海道小平高等養護学校の開校30周年記念式典の御慶事に際し、心よりお祝いを申し上げますと共に、校長始め教職員及び地域の皆様方のご支援ご協力にたいし敬意と感謝を申し上げます。

開校準備のために鬼鹿に集合した5人は、日夜話し合いをし、それぞれの立場を堅持しながら意見を出し合いました。私は校歌づくりに没頭しました。小平町の自然、町内の人々の生活、雄大な日本海、入学してくる生徒達の思いと保護者の方々の思いを、なんとか言葉にかえていました。作曲は知人に依頼しました。道教委は特に何も言ってこなかったので、これでよしとしました。

ここ4・5年、家庭の事情で学校訪問をする機会もとれずにいましたので、特別支援教育の現状はさっぱり分かっていません。

特別ニーズのある子どもを対象とした地域のセンターとしての役割を担い、一段と地域や保護者との連携を強化していく必要があります。そのためには、校長を中心として職員一丸となって課題解決のため精進されることをお祈り申し上げます。

開校30周年によせて



開校30周年に あたって

小平高等養護学校
生徒会長 丸山莉音

私は、一昨年の4月にこの小平高等養護学校に入学してきました。最初は初めての共同生活が大変でしたが、今となっては良い思い出ばかりです。

高校に入って頑張ろうと思ったことは、体力つくりと人との関わり方です。私は身体を動かすことも人と関わる事も好きですが、得意ではなく積極的にできませんでした。この小平高等養護学校に入ってからは、体力をつける大切さと人と関わる大切さを改めて感じ、卒業後の長い人生のために努力したいと思いました。

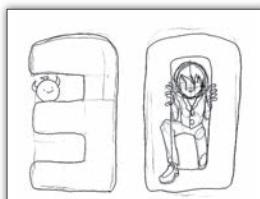
学校生活での思い出に残っていることは、学校祭の学年発表と即売会です。学年発表では、仲間と協力し演出の工夫をして、演技のアドバイスをし合いました。即売会では、先輩や後輩達と協力して準備を行い、お客様に製品と笑顔を届けることができました。

寄宿舎生活では、初めての共同生活で、先輩方や後輩達と協力することや、同じ部屋で過ごすことが大変でした。しかし卒業後の自立した生活のために日々頑張って過ごしました。

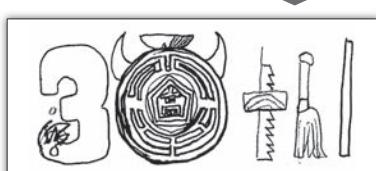
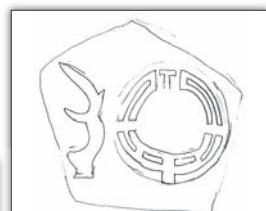
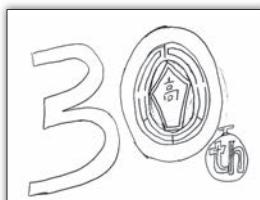
これから後の後輩に伝えたいことは、心の余裕を持つことと体力つくりが大事だということです。私は現場実習で実感したことがあります。それは慣れない環境で暮らしていると心の余裕がなくなるということです。心の余裕が持てるようになるには、体力が必要です。後輩達には、ぜひ体力つくりを頑張ってほしいと思います。

最後に、開校30周年記念を迎えたことを心より嬉しく思います。先輩達が引き継いでくれたこの学校が、この先も発展していくことを願います。

記念マークができるまで



個人のアイデア



話し合いで 2案に



完成！



沿革～開校からのおゆみ

平成6年度

11月30日 (仮称)北海道道北地区高等養護学校第1期新築外構工事竣工
3月25日 (仮称)北海道道北地区高等養護学校第1期寄宿舎棟新築工事竣工

平成7年度

6月8日 (仮称)北海道道北地区高等養護学校第1期校舎新築工事竣工
10月1日 手代木莊司他5名開校事務取扱発令
11月15日 (仮称)北海道道北地区高等養護学校第2期新築外構工事竣工
12月28日 北海道条例第54号により北海道小平高等養護学校を設置
3月25日 第2期校舎新築・屋内体育館新築・第2期新築外構工事竣工

平成8年度

4月1日 初代校長 手代木 莊司、他職員52名 発令
4月17日 第1回入学式 (生活園芸科8名、生活窓業科7名、木工科8名、クリーニング科8名、計31名)
6月7日 開校式並びに校舎落成記念祝賀会
3月14日 柔剣道場新築・水泳プール及び上屋新築工事竣工

平成9年度

4月10日 第2回入学式 (生活園芸科8名、生活窓業科8名、木工科6名、クリーニング科6名、計28名)

平成10年度

4月9日 第3回入学式 (生活園芸科2名、木工科6名、クリーニング科7名、計15名)
3月7日 第1回卒業証書授与式 (生活園芸科8名、生活窓業科6名、木工科8名、クリーニング科7名、計29名)

平成11年度

4月1日 第2代校長 中西 豪 発令
4月9日 第4回入学式 (生活園芸科2名、生活窓業科2名、木工科5名、クリーニング科5名、計14名)
3月5日 第2回卒業証書授与式 (生活園芸科7名、生活窓業科8名、木工科6名、クリーニング科6名、計27名)

平成12年度

4月11日 第5回入学式 (生活園芸科7名、生活窓業科7名、木工科4名、クリーニング科3名、計21名)
3月4日 第3回卒業証書授与式 (生活園芸科2名、木工科6名、クリーニング科7名、計15名)

平成13年度

4月10日 第6回入学式 (生活園芸科3名、生活窓業科3名、木工科4名、クリーニング科6名、計16名)
4月20日 小平オンネ風力発電所 (小平はつでんくん) 発電式

11月22日 公開研究会開催

3月3日 第4回卒業証書授与式 (生活園芸科2名、生活窓業科2名、木工科4名、クリーニング科5名、計13名)

平成14年度

4月1日 第3代校長 齊藤 哲男 発令
4月9日 第7回入学式 (生活園芸科6名、生活窓業科5名、木工科1名、クリーニング科2名、計14名)
3月9日 第5回卒業証書授与式 (生活園芸科7名、生活窓業科7名、木工科3名、クリーニング科3名、計20名)

平成15年度

4月9日 第8回入学式 (生活園芸科5名、生活窓業科4名、木工科5名、クリーニング科4名、計18名)
3月7日 第6回卒業証書授与式 (生活園芸科3名、生活窓業科3名、木工科4名、クリーニング科6名、計16名)

平成16年度

4月9日 第9回入学式 (生活園芸科8名、木工科5名、クリーニング科6名、計19名)
2月22日 平成16年度留萌管内教育実践表彰受賞、留萌管内教育課程実践研究論文表彰
3月6日 第7回卒業証書授与式 (生活園芸科4名、生活窓業科5名、木工科1名、クリーニング科2名、計12名)

平成17年度

- 4月1日 第4代校長 鎌田 篤 発令
4月11日 第10回入学式（生活園芸科9名、木工科4名、クリーニング科5名、計18名）
11月9日 開校10周年記念式典・公開研究会開催
3月4日 第8回卒業証書授与式（生活園芸科5名、生活窓業科4名、木工科5名、クリーニング科4名、計18名）

平成18年度

- 4月11日 第11回入学式（生活園芸科8名、木工科3名、クリーニング科6名、計17名）
3月3日 第9回卒業証書授与式（生活園芸科8名、木工科5名、クリーニング科6名、計19名）

平成19年度

- 4月10日 第12回入学式（生活園芸科8名、木工科9名、クリーニング科8名、計25名）
3月8日 第10回卒業証書授与式（生活園芸科9名、木工科4名、クリーニング科5名、計18名）

平成20年度

- 4月9日 第13回入学式（生活園芸科8名、木工科6名、クリーニング科8名、計22名）
3月7日 第11回卒業証書授与式（生活園芸科8名、木工科3名、クリーニング科6名、計17名）

平成21年度

- 4月1日 第5代校長 木村 誠 発令
4月9日 第14回入学式（生活園芸科8名、木工科8名、クリーニング科7名、計23名）
4月11日 小平オンネ風力発電所（小平はつでんくん）、落雷による故障のため撤去
3月6日 第12回卒業証書授与式（生活園芸科8名、木工科9名、クリーニング科8名、計25名）

平成22年度

- 4月1日 産業科開設
4月9日 第15回入学式（木工科5名、クリーニング科8名、産業科8名、生活園芸科8名、計29名）
3月5日 第13回卒業証書授与式（木工科6名、クリーニング科8名、生活園芸科8名、計22名）

平成23年度

- 4月1日 第6代校長 島 まゆみ 発令
4月11日 第16回入学式（木工科8名、クリーニング科9名、産業科8名、生活園芸科8名、計33名）
3月3日 第14回卒業証書授与式（木工科8名、クリーニング科7名、生活園芸科8名、計23名）

平成24年度

- 4月10日 第17回入学式（木工科7名、クリーニング科8名、産業科3名、生活園芸科8名、計26名）
3月9日 第15回卒業証書授与式（木工科5名、クリーニング科8名、産業科8名、生活園芸科7名、計28名）

平成25年度

- 4月9日 第18回入学式（木工科6名、クリーニング科4名、産業科8名、生活園芸科8名、計26名）
3月7日 第16回卒業証書授与式（木工科8名、クリーニング科8名、産業科8名、生活園芸科8名、計32名）

平成26年度

- 4月1日 第7代校長 矢野 光男 発令
4月9日 第19回入学式（木工科6名、クリーニング科8名、産業科8名、生活園芸科8名、計30名）
3月1日 第17回卒業証書授与式（木工科7名、クリーニング科8名、産業科3名、生活園芸科8名、計26名）

平成27年度

- 4月9日 第20回入学式（木工科7名、クリーニング科5名、産業科8名、生活園芸科8名、計28名）
11月19日 20周年記念公開授業研究会
3月5日 第18回卒業証書授与式（木工科6名、クリーニング科4名、産業科8名、生活園芸科8名、計26名）

平成28年度

- 4月1日 第8代校長 野村 俊夫 発令
4月11日 第21回入学式（木工科1名、クリーニング科6名、産業科7名、生活園芸科5名、計19名）
3月4日 第19回卒業証書授与式（木工科6名、クリーニング科8名、産業科8名、生活園芸科8名、計30名）

平成29年度

- 4月11日 第22回入学式（木工科8名、クリーニング科3名、窯業科5名、園芸科2名、計18名）
2月5日 平成30年度留萌管内教育実践表彰受賞
3月3日 第20回卒業証書授与式（木工科7名、クリーニング科5名、産業科6名、生活園芸科8名、計26名）

平成30年度

- 4月1日 第9代校長 田近 和憲 発令
4月10日 第23回入学式（木工科5名、クリーニング科1名、窯業科2名、園芸科5名、計13名）
3月9日 第21回卒業証書授与式（木工科1名、クリーニング科6名、産業科6名、生活園芸科5名、計18名）

平成31年度

- 4月9日 第24回入学式（木工科6名、クリーニング科4名、窯業科7名、園芸科2名、計19名）

令和元年度

- 6月14日 大規模改分工事（第1期）着工
2月14日 大規模改分工事（第1期）竣工
3月7日 第22期生卒業（木工科8名、クリーニング科3名、窯業科5名、園芸科2名、計18名）

令和2年度

- 4月13日 第25回入学式（クリーニング科4名、窯業科4名、計8名）
6月26日 大規模改修工事（第2期）着工
3月12日 第23回卒業証書授与式（木工科5名、窯業科2名、園芸科4名、計11名）
3月15日 大規模改修工事（第2期）竣工

令和3年度

- 4月1日 第10代校長 源 一広 発令
4月13日 第26回入学式（木工科4名、クリーニング科1名、窯業科4名、計9名）
4月30日 大規模改修工事（第3期）着工
1月13日 大規模改修工事（第3期）竣工
3月4日 第24回卒業証書授与式（木工科5名、クリーニング科4名、窯業科7名、園芸科2名、計18名）

令和4年度

- 4月12日 第27回入学式（木工科4名、クリーニング科2名、窯業科2名、計8名）
3月3日 第25回卒業証書授与式（クリーニング科3名、窯業科4名、計7名）

令和5年度

- 4月1日 第11代校長 斎藤 利文 発令
4月10日 第28回入学式（木工科6名、クリーニング科2名、窯業科5名、計13名）
3月1日 第26回卒業証書授与式（木工科4名、クリーニング科1名、窯業科4名、計9名）

令和6年度

- 4月9日 第29回入学式（木工科4名、窯業科4名、計8名）
3月7日 第27回卒業証書授与式（木工科4名、クリーニング科1名、窯業科2名、計7名）

令和7年度

- 4月9日 第30回入学式（木工科1名、窯業科8名、計9名）
7月4日 開校30周年記念教職員専門性向上研修会
10月22日 開校30周年記念公開授業研究会

教育活動の紹介

学科紹介(R7) 木工科

木工科主任 林 和憲

30周年を迎えた今年の木工科は、1年生1名、2年生3名、3年生6名が在籍しています。木を素材とした製品の製作や販売活動、仲間との協働作業を通じて、将来の就労に役立つスキルや協調性を身に付け、開校から変わらず、卒業後の生活を見据えて働く力や態度を育んでいます。

また、繰り返しの製品製作や販売会など、実際に体験することを通して、働くことの楽しさや喜びについて学び、地域との関係を深めながら生徒個々の自信へとつなげています。

近年の製作では、レーザープリンターを使って刻印を入れた製品が増えました。特にネームプレートは好評で、本校職員への販売だけではなく、北海道教育委員の皆様にも贈呈し、実際に使っていただいています。

これから木工科では、製作に加えてICTも活用しながら、情報社会で活躍できる力を身に付け、未来を切り拓く人材を育成していきます。



学科紹介(R7) クリーニング科

クリーニング科主任 北林 雅貴

3月に卒業生を送り出し、3学年1名となったクリーニング科です。開校からの30年間、作業学習ではワイシャツ、じゅうたん洗い、おしごり包装、シーツローラー、アイロン、カーリーニング、ハウスクリーニング、窓クリーニング、縫工作業など多岐にわたる学習を行ってきました。

また、「地域とのつながり」を大切に、小平町役場や道の駅観光交流センターなど、近隣の公共施設に出向いて窓クリーニング作業を行ったり、地域のお祭りで使用した法被等のクリーニング作業を行っています。また、校外での活動や受注作業を通して、地域の人と直接関わったり、感謝をされることで、生徒のコミュニケーション能力の向上や就労意欲の向上に繋がっています。多くの作業種の経験を通して、自立と社会参加に向けて必要な基礎的・基本的な能力を高め、実践的な態度を育成しています。

30周年を迎える今年度を最後に残念ながら間口減となります。今後とも、本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いします。



学科紹介(R7) 窯業科

窯業科主任 倉林 亘

開校時、生活窯業科としてスタートした本学科は、その後産業科となり、平成29年度の学科再編により現在の窯業科となりました。科名は変遷していますが、作業内容は一貫して窯業に取り組んできています。

日々の作業学習で生産した製品は、製品販売会で販売しています。1学年は年2回校内販売を実施し、2、3年生は年に1回、道の駅で販売をしています。11月には、全学年で学校祭販売会に取り組んでいます。また、小平町観光交流センター（道の駅）や近隣の中学校からの外部受注も行っております。観光交流センターからの受注は年間5～6回ほど行っており、1回当たり100程度の製品を納品しています。製品を生産するだけではなく、受注納品活動や販売活動を行うことで、流通や経済についての理解、人との関わり方といった社会性、さらには自己肯定感や自己有用感の育成も同時に担っています。

また、今年度より、上級生と下級生が合同で作業を行う活動も積極的に取り入れており、先輩が後輩に仕事を教える場面を組み込んだ授業づくりにも力を入れています。これからも日々の活動一つ一つを大切にしながら生徒一人一人が自分自身の「夢」に向かって「挑戦」し「未来」を切り拓いていけるような指導に努めていきたいと考えております。



寄宿舎のご紹介

寄宿舎では、生徒たちが安心して暮らせる環境を提供しています。学びと生活が調和する場として、生徒たちは自立心を育みながら、仲間との絆を深めています。

特別な支援を必要とする生徒たちが、互いに支え合い、成長する日々。寄宿舎内では、家庭的な雰囲気を大切にしながら、社会性や協調性を養う活動が行われています。

また、寄宿舎では様々な季節の行事や地域との交流イベントがあり、生徒たちが日々の生活を豊かにする機会がたくさんあります。

寄宿舎の生活



【起床】

布団を畳み、着替えたら洗面をして、部屋の掃除を行います。自分たちの部屋をきれいに掃除し、清々しい気持ちで1日が始まります。



【食事】

食事は元気の源。マナーを大切にした食事や、バランスよく食べることを目指します。



【登下校～入浴】

学校での授業を終え様々な顔で生徒たちは下校してきます。担当の先生に下校の挨拶をし、部屋に向かいます。その後、お風呂・シャワーに入り1日の疲れをとります。入浴後はすぐに洗濯を行い、その日の洗濯物はその日のうちに終わらせるようにします。自分で洗濯機の操作をし、洗濯物を干します。



【余暇時間】

余暇時間は他の生徒と話をしたり、テレビをみたり、音楽を聞いたり、ゲームをしたり、部屋でのんびりしたりするなど、それぞれの時間を過ごしています。体育館に行って遊ぶこともあります。希望者は週に2回携帯電話を使うこともできます。



寄宿舎行事について

■ 舎室活動

年に6回程度、舎室単位での活動を行っています。外食や学校の近くにあるパークゴルフ場に行きパークゴルフをしたり、学校近くのお店でデザートを買うなどの活動をしたりして、日常の学習と卒業後の余暇が結び付いた余暇活動の充実を図っています。



寄宿舎では、他にもレクレーション会や歓迎会、卒業を祝う会などさまざまな行事を企画・運営しています。

編集後記

北海道小平高等養護学校が開校30周年を迎えるにあたり、今回記念事業のひとつとして記念誌を発行いたしました。

編集作業を進めながら本校の歴史をあらためて見つめ直すと、その歩みの中には常に、生徒たちの「夢に向かって挑戦し、未来を切り拓く」姿があり、この教育目標が本校の根幹であることを再認識いたしました。

この記念誌が、本校の過去と現在を振り返るだけでなく、未来への希望を育む一助となれば幸いです。これからも、生徒一人ひとりの夢を育み、その挑戦を支える教育に邁進してまいります。

最後に、今後とも本校発展のために尚一層のご支援を賜りますよう心よりお願いするとともに、本校を応援してくださる皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げます。

また、今回の記念誌作成にかかわり白鷗印刷(株)様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

開校30周年記念誌 編集担当一同

編集担当者

菊池光春 梶谷美麗 齊藤崇子 小堀将宏
奈良岡有紀 扇子祥恵 斎藤颯人 河野綺由

30周年記念マークについて

30周年記念事業に向けて、昨年度（R6年度）の3年生の授業でアイデアを考え、話し合いを重ねて作成しました。作成したデザイン画を基に全校生徒からも意見を募り、下記のとおり決定しています。

「30」の文字は、小平の豊かな自然を感じさせる空（雲）、波、魚（鯉）と本校の校章で表現しました。（本校の校章は、「小平」の文字や海、太陽、緑の里などの自然、本校の教育の指標などが意匠となっています。）

「周年」を意味する「th」は、本校の3つの学科の象徴である「鋸（木工科）」、「箒（クリーニング科）」、「皿（窯業科）」を組み合わせて表現しています。



*生徒が作成したデザイン画の一部を、本記念誌8頁に掲載しています。

北海道小平高等養護学校
開校30周年記念誌

未挑等
未戰等

令和7年11月14日

編 集 北海道小平高等養護学校教務部

發 行 北海道小平高等養護学校開校30周年記念事業協賛会

印 刷 白鷗印刷株式会社（留萌市錦町2丁目 ☎ 42-1111）



北海道小平高等養護学校開校30周年記念誌